

福知山市教育目標

自分のために 人のために 社会のために

「共に幸せを生きる人材の育成」教育のまち福知山

いじめ防止基本方針

～共に幸せを生きる力の育成～



夜久野学園

福知山市立夜久野小学校

夜久野中学校

1 いじめ防止基本方針

本市の教育目標は、「自分のために<自己実現> 人のために<他者貢献> 社会のために<社会貢献>」尽くす高い志をもち、時代を切り拓く人材を育成する「こころざしの教育」にある。

この目標のもと、本市学校教育は、「保幼小中連携、一貫教育(シームレス学園構想)」の推進を通して確かな学力、豊かな人間性や社会性、健康な体力など、知・徳・体の調和のとれた幼児児童生徒を育成し、もって生涯にわたる学習の基盤を培い、社会の変化に対応できる「生きる力」を備えた人材を育成する。

この目標を達成するために、夜久野学園の精神「『自主・敬愛・創造』」に基づき、教育目標「共に幸せを生きる力の育成」を明示し、教育課題解決(いじめ課題解決)のため、全教職員が連携・協働して学校教育を推進する。

2 いじめの問題への基本姿勢

(1) 初期の段階から全学園体制での積極対応

校内に校長をトップとするいじめ防止対策推進本部を常設し、「いじめをしない・させない学校」づくり及び外部機関との連携による「開かれた学校」づくりを推進するとともに、いじめ問題が発生した場合には関係教職員による危機対応チームを組織し、役割分担に沿った迅速で的確な対応を行うことでいじめの早期の解消を図り、児童生徒が安心して学ぶことができる環境を整える。

(2) 未然防止に向けた取組

- ① いじめは、「どの子どもにも起こり得る」ものであることを、全教職員が十分認識する。
- ② 「いじめは人間として絶対に許されない」という意識を、学校教育全体を通じて、児童生徒一人一人に徹底する。
- ④ いじめが解決したと見られる場合でも、教職員の気付かないところで、陰湿ないじめが続いていることも少なくないことを認識する。
- ③ 児童生徒一人一人を大切にする意識や、日常的な態度が重要であることを認識して指導を進める。
- ⑤ 定期的な調査だけでなく、必要に応じて、きめ細かな実態把握に努め、情報を全教職員で共有する。
- ⑥ 障害のある児童生徒はいじめの対象になりやすいことから、日常から授業や休み時間の行動、友達関係を注視する必要がある。また、障害がなくても、人と話すことが苦手であったり、友達を作りにくかったりする児童生徒がある。人にはいろいろな個性があり、たがいに認め合うことが大切であるという指導を推進する。

3 いじめの理解

(1) いじめ問題の基本的考え方と認識

- ① いじめは児童生徒の心身の健全な発達に深刻な影響を及ぼし、不登校、自殺、殺人などを引き起こす背景ともなる重大な問題である。
- ② 最近のいじめは SNS の発展に見られるように、インターネットの普及により、一層見えにくくなっており、また拡がりやすくなってきている。
- ③ だれもが加害者にも被害者にもなり得るものである。

(2) いじめを捉える視点

(いじめの定義)

第2条 この法律において「いじめ」とは、児童等に対して、当該児童等が在籍する学校に在籍している等当該児童等と一定の人的関係にある他の児童等が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）であつて、当該行為の対象となった児童等が心身の苦痛を感じているものをいう。

2 この法律において「学校」とは、学校教育法（昭和22年法律第26号）第1条に規定する小学校、中学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校（幼稚部を除く。）をいう。

3 この法律において「児童等」とは、学校に在籍する児童又は生徒をいう。

4 この法律において「保護者」とは、親権を行う者（親権を行う者のないときは、未成年後見人）をいう。

個々の行為が「いじめ」に当たるか否かの判断は、表面的・形式的に行うことなくいじめられた児童生徒の立場に立って行うものとする。「いじめられた児童生徒の立場に立って」とは、いじめられたとする児童生徒の気持ちを重視することである。「いじめ」とは、「当該児童生徒が、一定の人間関係のある者から、心理的、物理的攻撃を受けたことにより、精神的な苦痛を感じているもの」とする。なお、起こった場所は学校の内外を問わない。

4 指導体制の在り方

(1) いじめの問題への取組チェックポイント

いじめの問題への取組について、いじめ防止対策推進本部、危機対応チーム及び教職員個人が、それぞれの立場で定期的に点検を行い、点検結果を共有して課題を明確にし、必要な改善を行っていきます。

指導体制

- 1 いじめの問題の重大性を全教職員が認識し、校長を中心に一致協力体制を確立して実践に当たる。
- 2 いじめの問題について、特定の教職員が抱え込んだり、事実を隠したりすることなく、学校全体で対応する体制を確立させる。

- 3 いじめの態様や特質、原因・背景、具体的な指導上の留意点などについて職員会議などの場で取り上げ、教職員間の共通理解を図る。

早期発見・早期対応

- 1 教職員は、日常の教育活動を通じ、教職員と児童生徒、児童生徒間の好ましい人間関係の醸成に努める。
- 2 児童生徒の生活実態について、聞き取り調査や質問紙調査を行うなど、きめ細かく把握に努め、児童生徒が発する危険信号を見逃さず、その一つ一つの的確に対応する。
- 3 養護教諭やスクールカウンセラーを交え、いじめの把握及び教育相談が行える体制整備を行い、それが十分に機能させる。
- 4 いじめについて訴えがあったときは、問題を重大に捉え、保護者や友人等からの情報収集等を通じて事実関係の把握を正確かつ迅速に行い、事実を隠蔽することなく、的確に対応する。
- 5 いじめの問題解決や教育相談の実施に当たり、教育委員会との連絡を密にすると同時に、必要に応じ、教育相談室・児童相談所・警察等の関係機関と連携・協力を行うとともに、その周知や広報を行う。
- 6 学校における教育相談が、保護者にも十分理解され、悩みに応えることができる体制になるように努める。

教育的指導

- 1 「いじめは人間として許されない」との強い認識に立ち、学校全体として、校長をはじめ、各教職員がそれぞれの指導場面においていじめの問題に関する指導の機会を設け、積極的に指導を行うよう努める。
- 2 道徳や学級活動の時間及び児童生徒会活動などにおいて、いじめにかかわる問題を取り上げ、適切な指導・助言を行う。
- 3 いじめられる児童生徒に対し、心のケアやさまざまな弾力的措置など、いじめから守り通すための対応を行う。
- 4 いじめが解決したと見られる場合でも、その後も十分な注意を払い、継続的に必要な指導を行う。
- 5 いじめを行う児童生徒に対しては、校内での通常の指導のほか、さらに警察との連携等の措置も含め、毅然とした対応を行う。

家庭・地域との連携

- 1 学校におけるいじめへの対処方針や指導計画等を公表し、保護者や地域住民の理解を得るよう努めるとともに、機会あるたびにいじめの問題について協議し、いじめの根絶に向けて地域ぐるみの対策を進める。
- 2 家庭や地域に対して、いじめの問題の重要性の認識を広めるとともに、いじめが起きた場合、学園として、家庭との連携を密にし、一致協力してその解決に当たる。

5 いじめの対応

いじめを発見した場合は、全体に対する指導だけで終わるのではなく、いじめた子ども、いじめられた子どもへの個別の指導を徹底するとともに、いじめている子ども、いじめられている子ども双方の家庭にいじめの実態や経緯等について連絡し、家庭の協力を求めるよう努める。

(1) いじめられている子どもへの対応

【学校】

- ・いじめられている子どもを必ず守り通すという姿勢を明確に示し、安心させるとともに、教職員の誰かが必ず相談相手になることを理解させる。
- ・決して一人で悩まずに、友人や保護者、教職員等誰かに相談すべきことを十分指導する。
- ・いじめの事実関係を正しく把握することが必要であるが、その場合、冷静に、じっくりと子どもの気持ちを受容し、共感的に受け止め、心の安定を図る。
- ・いじめた子どもの謝罪だけで、問題が解決したなどという安易な考えを持たずに、その後の行動や心情を継続して見守りきめ細かく支援していく。
- ・子どもの長所を積極的に見つけ、認めるとともに、自ら進んで取り組めるような活動を通して、やる気を起こさせ、自信を持たせる。
- ・いじめられている子どもを守り通すとの観点から、場合によっては、緊急避難としての欠席や転校措置等、保護者と相談しながら弾力的に対応する。

【家庭】

- ・子どもの様子に十分注意して、子どものどんな小さな変化についても気にかけて、何かあったら学校に相談し、協力していく。
- ・必ず守り通すという姿勢を明確に示し、安心させるとともに、本人の話を冷静に、じっくりと聞き、子どもの気持ちを受容し、共感的に受け止め、心の安定を図る。
- ・子どもの長所を積極的に見つけ、認めるとともに、家族にとってかけがえのない存在であることを理解させ、自信を持たせる。

(2) いじめている子どもへの対応

【学校】

- ・まず、いじめられた児童生徒の心理的・肉体的苦痛を十分理解させ、いじめが人間として絶対許されない行為であることを分からせる。
- ・当事者だけでなく、いじめを見ていた子どもからも詳しく事情を聴き、実態をできるだけ正確に把握する。
- ・集団によるいじめの場合、いじめていた中心者が、表面に出ていないことがあるため、いじめの集団内の力関係や一人一人の言動を正しく分析して指導する。
- ・いじめた子どもが、どんなことがいじめであるのか分かっていない場合も考えられるので、いじめの態様によっては、犯罪に当たる場合があることを理解

させる。

- ・いじめた子どもの不満や充足感を味わえない心理等を十分理解し、学校生活に目的を持たせ、人間関係や生活体験を豊かにする指導を継続して行う。
- ・いじめが解決したと見られる場合でも、教師の気付かないところで陰湿ないじめが続いている場合もあるので、一時の指導によって、解決したと即断することなく、継続して十分な注意を払い、折に触れて必要な指導を行う。

【家庭】

- ・いじめは絶対に正当化できないものであるという毅然とした姿勢を示すとともに、本人に十分言い聞かせる。
- ・子どもの変容を図るために、子どもとの今後の関わり方や家庭教育の見直し等について、本人と保護者が一緒に考える。

(3) いじめられている子どもの保護者への対応

- ・いじめの訴えはもちろんのこと、どんな些細な相談でも真剣に受け止めて、誠意ある対応を心がける。
- ・家庭訪問をしたり、来校を求めたりして話し合いの機会を早急に持つ。その際、不安と動揺の心で来校する保護者の気持ちを十分に受け止め、対応策について協議する。また、学校として、いじめられている子どもを守り通すことを十分伝える。
- ・いじめについて、学校が把握している実態や経緯等を隠さずに保護者に伝える。
- ・学校での様子について、その都度家庭に連絡するとともに、必要に応じ個別の面談や家庭訪問を行うなど、解決するまで継続的に保護者と連携を図る。
- ・必要な場合は、緊急避難としての欠席も認めることを伝える。
- ・家庭においても子どもの様子に十分注意してもらい、子どものどんな小さな変化についても学校に連絡してもらうように要請する。

(4) いじめている子どもの保護者への対応

- ・いじめの事実を正確に伝え、いじめられている子どもや保護者の、つらく悲しい気持ちに気付かせる。
- ・教職員が仲介役になり、いじめられた子どもの保護者と協力して、いじめを解決するため保護者同士が理解し合うように要請する。
- ・いじめは絶対に正当化できないものであるという毅然とした姿勢を示すとともに、家庭でも十分言い聞かせてもらうよう要請する。
- ・子どもの変容を図るために、子どもとの今後の関わり方や家庭教育の見直し等について、本人や保護者と一緒に考え、具体的に助言する。

6 「いじめをしない・させない学校づくり」推進の取組

児童生徒の自主的な取組を通じて、未然防止としてのいじめを許さない学校づくりを推進し、「いじめは人間として絶対に許されない」という意識を高めるととも

に、自己を大切にし、他を思いやる心を育み、子ども自らがいじめを早期に気付くよう指導し、「いじめをしない・させない学校づくり」に取り組む。

(1) 児童生徒会などが中心となる取組

「いじめを絶対に許さない」という意識を児童生徒一人一人に持たせ、学校全体や学級でいじめ撲滅に取り組んでいる雰囲気をつくる。

○意見発表

「いじめ・差別・人権」をテーマとした学習を通して、児童生徒が作文を書くとともに、文化祭で演劇等を通じて発信する。

○「いじめ追放宣言」「いじめ撲滅宣言」などの採択

児童生徒会活動の活動として、「いじめ追放」の取組を柱行う。

○あいさつ運動

委員会、部活動、学級などを単位とし、校門などであいさつ先手運動を行う。

(2) 体験活動を取り入れた取組

ボランティア活動や自然体験、異年齢集団での活動などを通じて、素直に感謝の気持ちを表したり、他人を思いやる心を育んだりするなど、人間関係力を深め福祉の心を涵養する。

○ボランティア活動

校内・地域の関連施設等へボランティア活動を推進する。地域行事に積極的に参加させ、活動を支援する。

○部活動

各部活で担当し、年間を通して助け合って校内外の取組を進める。

(3) 児童生徒が活動する取組

自分以外の考え方にふれ、物事を多面的な立場で捉え、相手や周りを気遣う気持ちを身につける。

○「いじめ」をテーマにした学習

学級活動や道徳の時間に、いじめられる側、いじめる側、それぞれの立場から考え、様々な意見をぶつけ合うことで、いじめを許さない意識の高揚を図る。どのような行為がいじめになり、さらに犯罪になるのか、また、いじめが行われているのを見たときにどのような行動をとればよいのかをいじめられる側の立場に立って意見を出し合うことでいじめに対する理解を深め、傍観者とならず「いじめを見逃さない」視点を育てる。

(4) 学校、PTAなどと連携した取組

児童生徒だけではなく、教職員、保護者、地域と協力して「いじめを許さない学校づくり」に取り組んでいく。

○いじめアンケートを活用した連携

アンケート結果をもとに、いじめについて考える児童生徒集会を開催したり、アンケート調査の結果を保護者や地域に知らせたりして、地域でいじめ問題に取り組む。

○非行防止講座の実施

児童生徒のみならず、保護者や地域の方を対象に開催し、ネットいじめの事例などをもとに、家庭や地域から、いじめ追放への気運を高める。

○人権講演会の開催

P T A及び関係機関と協議して「人権講演会」を開催し、人権感覚を豊かにするための取組を進める。

夜久野学園 いじめ防止対策推進 フロー図

